Ⅰ　実践

1　本校の人権教育の目標

法の下の平等の原則に基づき，人権尊重の精神の涵養を目的とする教育を推進するため，研修計画を位置づけ，教師自らの正しい認識を深め，自他の人権を大切にした望ましい人間関係を築こうとする生徒を育てる。

2　実践内容

（１）生徒の学ぶ意欲を高め，確かな学力を身につける学習指導の推進

互いに学び合い，認め合う中で，確かな学力を身につけることができるよう，授業の改善を行ってきた。全教科の授業で，１時間の中に小グループでの学び合いの時間を必ず取り入れ，自分の考えが認められたり，友達の考えに触れて，仲間と学ぶ楽しさを知ったりすることができ，自己肯定感を高めると同時に，学ぶ意欲を高められるようにしている。

（２）人権メッセージや人権作文への応募

生徒全員が人権メッセージの作成に取り組んでいる。道徳の授業などを通して，思いやりや命の尊さについて考えたことを，自分の言葉で表現した。また，人権作文に応募するにあたっては，これまでに発行されている人権作文集を読んだり，作文集を道徳の教材としたりすることで，人権感覚の育成を図った。

（３）総合的な学習の時間での取り組み

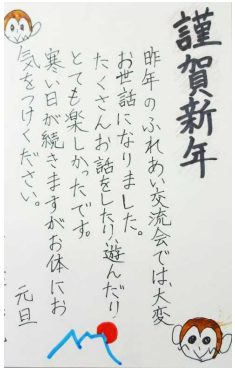
１学年では，「郷土『日立』」というテーマの中で，身近な地域の方とのふれあう時間をもっている。地域のコミュニティ推進会ボランティアふれあい活動部との共催による「ふれあい交流会」には，主に地域の高齢者が参加してくださっている。卓球や郷土かるた，輪投げなどのレクリエーション，会食会を通して，高齢者を身近に感じるとともに，地域の一員としての役割について考える機会となっている。

特に，今年度は戦後７０年ということで，「戦争体験を聞く会」も行い，平和について改めて考える機会ともなった。（資料１）

【資料１「ふれあい交流会」会食の様子】

（４）学級活動での取り組み

１年生は，交流会で絆を深めた地域の方へ年賀状を送り，２・３年生は，老人ホームでお正月を迎えるお年寄りに年賀状を送った。面識のない方に対しても思いを寄せる活動を通して，思いやりの気持ちを育む活動を設けた。（資料２）



【資料２　年賀状】

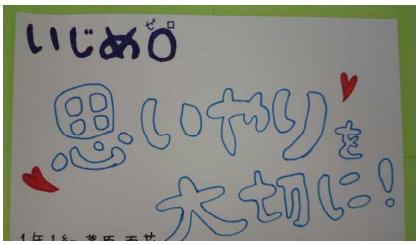
（５）生徒会活動での取り組み

生徒総会で「いじめ０宣言」を採択し，いじめ撲滅のための活動を各学級で行った。主な取り組みとして，友達の良さを見つけるためのレクリエーション，いじめ防止のためのポスター作り，友達の良さをカードに書いて掲示することなどを学年生徒会が主体となって行った。

また，各学年が行っていることを文化祭で発表し，他学年の取り組みを知ることで，さらに自分たちの活動を広げられるようにした。（資料３・４・５）

【資料３　文化祭の発表】

【資料４　ポスター作り】



【資料５　いじめ防止ポスター】

（６）古紙回収運動

協力，協働の心を育てるとともに，労働の大切さ，資源の有効活用の大切さを考えたり，地域への貢献やボランティアを通じての社会参加を目指すとともに，地域の人々との交流を深めたりすることを目的とし，毎年，古紙回収を行っている。今年度は，県内の自然災害に遭われた方へ自分たちにできることはないかと考え，奉仕活動委員会からの呼びかけにより，全校生徒が学区内の住民宅を訪問して古紙を回収し，古紙回収業者に引き渡した収益金の一部を茨城新聞社を通して，募金することとなった。（資料６）

【資料６　古紙回収の様子】

（７）心と体を大切にするための取り組み

思春期講座として，１年生は「歯と口の健康集会」「喫煙防止教室」，２年生では「薬物乱用防止教室」，３年生では「性に関する学習会」を行い，自分にも目を向け，自身を大切にしようとする気持ちを育てている。

また，２年生では，「立志式」を行っている。自分の成長を改めて見直すとともに，周囲への感謝の気持ちをもち，これからよりよい成長するための式となっている。

（８）校長賞の授与

台原中では，３つの目標「時間を守る，迷惑をかけない，他人の役に立つことをする」のもと，生徒と教師が同じ目標に向かって行動するよう心がけている。特に，「人の役に立つ」という目標に向けた一人一人の頑張りを賞賛するために，「校長賞」を授与している。「熱心な清掃への取り組み」「友人を思いやる行動」「快いあいさつ」など，日常の中で，教師が生徒の良い点を見つけ，推薦している。１年間で全員が受賞できるようにし，自己肯定感の高まりに期待している。

（９）ハイパー QU テスト，いじめに関するアンケート，面談・教育相談の実施

年度初めと，年度途中の１１月にハイパー QU テストを実施して，学級経営に生かしている。いじめに関するアンケートも毎月実施し，生徒が安心して学校生活を送れているかを把握できるように努めている。その他には，二者面談を年３回行い，事前の生活アンケートをもとに，一人一人が自立した生活を送れるよう支援している。

３　成果

学校生活全体を通して，生徒と教師が同じ目標で生活したことで，生徒同士，生徒と教師が良い関係で結びついている。「学校生活や授業に関するアンケート」では，「迷惑をかけないようにしている」で「とてもそう思う」「そう思う」が 96.3 %，「他の人の役に立つことをやろうとしている」は，「とてもそう思う」「思う」が 94.4 %であり，生徒の意識の高さが感じられる。

また，友達が褒められている場面を見ることで，自分もそのように振る舞おうとするようになってきた。校長賞を受賞した生徒が，その行動が自然と行えるようになったり，受賞した友達を褒めたりと，日常の中によりよい行動が根付いてきている。

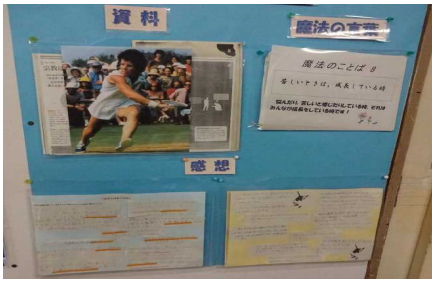
Ⅱ　今後の課題

○継続的に学校全体で生徒一人一人を認め励ますことをしてきたが，「学校生活に関するアンケート」では，「自分にはよいところがあると思う」という質問で，「あまり思わない」「思わない」が 19.2 %であった。自己肯定感をさらに高めていくための実践が必要である。

○学び合い活動では，その中での役割分担を工夫し，全ての生徒が様々な役割を経験して，自主的に活動することができるよう，意図的に授業を組み立てていく必要がある。今後も研修を深めていきたい。

Ⅲ　人権コーナー設置の様子

「魔法の言葉」では，月ごとに，自分の今を振り返り，支えとなるような言葉を掲示している。「感想」では，思いやりや命の大切さなどについて考えたことを，自分の言葉で発信することで，人権感覚の育成を図っている。（資料７）



【資料７　人権コーナー】